聖隷クリストファー大学　理学療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　有薗信一
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
理学療法研究の実践	45	基礎理学療法治療学	42
内部障害系理学療法治療学	47		

２．理念

担当している「内部障害系理学療法治療学」と「基礎理学療法治療学」,「理学療法研究の実践」は，理学療法学の実践的講義である．学生に患者が持つ障害をリアリティーを持つように具体的な症例を提示し，アクティブラーニングを中心に進めていき，講義の深さや教科書に載っていない臨床情報を教授していく．

３．方法

各セッションの課題（症例提示）をグループワークで解決・発表する

４．成果

授業内での質疑応答，課題成果物によって，学生の理解度を確認し，講義内容の深さを検討する

５．改善

他のグループの発表や教員フィードバックを通じて補足した点を，確認・フィードバックを行う

６．教育活動

教育関係のセミナーの参加

聖隷クリストファー大学　理学療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　矢倉千昭
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
地域実践アクティブラーニングⅠ	81	地域実践アクティブラーニングⅡ	33
地域実践アクティブラーニングⅢ	19	小児理学療法学	42
地域理学療法学の理論	48	地域理学療法学の実践	47
臨床理学療法見学実習	49		

２．理念

・学生が主体的かつ能動的に学修し、自己成長できる習慣を獲得できるように支援する。
・学生が理学療法士の基本的な知識や技術を身につけ、実践的に活用できるように支援する。
・学生が対象者と家族、地域社会の課題を俯瞰して捉え、解決する力が身につくように支援する。

３．方法

地域理学療法学の実践では、

・地域包括支援センターから出された地域課題の解決策を学生はグループワークで検討し、地域包括支援センターに報告してフィードバックを受けた。教員はグループワークが進行するようにアドバイスを行い、地域包括支援センターへの報告の進行を行った。
・運動器検診、高齢者介護予防、企業の安全衛生について実践的な関わりを通じ、地域社会における理学療法士の役割、多職種連携について学修した。

４．成果

・対象者や家族が地域や社会において、”その人らしく生きる”ために理学療法士は何ができるのかを考えることができた。
・高齢者の地域包括ケアシステムだけでなく、子どもや企業に勤める人たちも含めた地域社会の課題に対し、理学療法士が関わることによって得られる効果について考えることができた。
・学生は能動的に学修することで、地域課題は実践的で答えが一つではないことが多く、

病院で患者に提供する理学療法と違った視点で捉えることが必要であることを実感することができた。

5．改善

・実際の活動に学生が関わりたいとの意見があった。地域包括支援センターや企業の安全衛生課に相談し、過剰な業務負担にならないように配慮し、学生が実際の活動に触れる機会が持てるか検討する。

6．教育活動

・教務運営会議：教務部長
・全学 FD 委員会：委員
・理学療法学科 1 年生：副アドバイザー

聖隷クリストファー大学　理学療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　吉本好延
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
神経系理学療法評価学	43	神経系理学療法治療学	47
理学療法学総合演習	50	臨床理学療法評価実習Ⅰ	47
臨床理学療法総合実習技能評価	46		

２．理念
課題を解決する力を育成する。

３．方法
・シラバスへの課題提示→事前学習（個人）→webclass の掲示板を用いたフィードバック→グループワーク（授業）の手順で学習を進める
・事前学習課題はやや難易度を高め、授業での講義は理解しやすく（20 分程度）
・定期的に小テストを実施するが、ポイントは出題範囲が今までの授業で行った範囲が全てになるので、後半の小テストほど範囲が広い（重要な個所は何度も聞き方を変えて聞く）
・他の科目と連動（キーワード学習の時期を考慮した授業時間割の構成）

４．成果
・授業内容は比較的何難易度が高いと思われるが、事前学習を徹底しているので、授業の理解度は悪くないと思われる
・小テストでは重要な個所を何度も確認するので、特に重要な内容の理解度は高い
・一方で下位層の理解度をさらに引き上げる戦略が必要。

５．改善
・下位層の理解度をさらに引き上げる戦略が必要だが、本科目に臨む前の学力向上を目的に、他の科目と連動した学習計画が必要→2 年生秋のキーワード学習との連動は良かっ

たと思う。神経系の前提科目をあげ、該当の授業の内容にもテコ入れが必要。

６．教育活動

聖隷クリストファー大学　理学療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　金原一宏
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
キャリアデザイン(リハビリテーション学部)	103	理学療法研究の理論	46
物理療法学の理論	42	物理療法学の実践	42
臨床理学療法総合実習Ⅰ	46		

２．理念

2 年生の専門科目である．

炎症，疼痛，拘縮，筋緊張と，理学療法上問題となりえる症状の原因と臨床症状の理解を深め，なぜ，治療効果をえられるかを説明できるよう，体験を深めて治療場面をイメージしやすいよう講義実施する．理解を進めるため，わからないことをそのままにすることの無いよう配慮して講義を実施している．

３．方法

授業方法は，デモンストレーションと体験を取り入れ，これまで学習した生理学，解剖学，運動学をもとに、物理刺激が問題となる症状にどのような論理で改善を図れるかを目で見て体験し，学習している．

４．成果

2022 年度は，GPA　2.08 であった．

前年度と比較すると低下している．

学生の理解につながるイメージしやすい経験が講義内でできるよう改善する．本科目は，秋セメスターに実施する物理療法学の実践に繋がる講義であり，物理療法を実践をするための理論を深められるよう講義する．

５．改善

本年度は，物理療法に必要な炎症，疼痛，拘縮，筋緊張について，復習をする機会を設ける対応をする予定である．

６．教育活動

4 年生副アドバイザーを務め，主として就職を担当した．サークル活動は，バスケットサークル顧問を担い，現在，palpation サークル活動も講師として支援している．

聖隷クリストファー大学　理学療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　津森伸一
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
情報処理(月 1)	37	情報処理(月 2・津森)	20
情報処理(月 5・津森)	32	情報処理(月 6・津森)	50
情報処理(火 1・津森)	53	データサイエンス入門(看護 A②)	39
データサイエンス入門(看護 B②)	39	データサイエンス入門(EC)	51
データサイエンス入門(PT)	49	データサイエンス入門(ST)	17
物理学	19	基礎物理学(PT・OT)	31
基礎物理学(ST)	4		

２．理念

各学生の理解状況に応じた授業をデザインする．

３．方法

担当科目は，いずれも中学校・高等学校に履修する科目でその基礎を習得するものであるが，理解状況が多様なため，履修に必要なレディネスの獲得状況にバラつきが見られる．「基礎物理学(PT・OT)」においては，NHK 高校講座が提供するオンデマンド動画を用いた反転授業を実践した．その他の科目については，一定水準のレディネスを獲得できる方法を模索中である．

４．成果

「基礎物理学(PT・OT)」においては，半数程度の学生がオンデマンド動画を視聴していた．しかし，最終的な成果(定期試験の成績)には余り結びついていない．「データサイエンス入門」については，基礎分野(統計・検定)の高等学校での履修状況の調査により，現状把握に努めた．

５．改善

いずれも授業時間外の学習が必要であることを実感したので，興味を持ちながら学習できる環境の構築(「データサイエンス入門」)と，予習用の副教材の検索或いは作成(その他の科目)を行いたい．

６．教育活動

聖隷クリストファー大学　理学療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　根地嶋誠
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
国際保健医療福祉論	36	運動学Ⅰ	74
運動学Ⅱ	75	運動器系理学療法評価学	43
運動器系理学療法治療学	47	スポーツ理学療法学	33
臨床理学療法評価実習Ⅱ	46		

２．理念

教育の目的は自立です。

そのうえで大学教育として大切にしている点は，「支援」です。指導と称し上から目線になってしまわないように心がけています。多くのことを経験し，学び，自ら考え行動する力を養えるように支援します。学生の力が発揮できる環境になることを願います。

理学療法関連では，標準的理学療法を身につけられるようにします。

３．方法

授業では考えること，発想すること，理解することに重点を置きます。保健医療の学びではどうしても覚えることも必要ですが，それは自己学習で進め，授業ではできるだけ実際に体を動かしたり意見を言い合うような時間にします。

特に運動学では，初学者にとってイメージを持ちづらく難しいという意見があります。そのため多くの動画を用いて理解を促すようにしています。

４．成果

授業の到達度はおおよそ 7～8 割であり，その学年で学ぶべきことは学べていると考えています。

動画による説明は理解度を高めるようです。

５．改善

毎年、授業の進め方を調整しています。解説はより伝わるように、実技や考える機会を増

やし習得できるように、時間配分を考慮します。

６．教育活動

・アドバイザー
・地域実践アクティブラーニング（小学生対象講座）
・硬式野球部, アスリハ塾（トレーナー関連活動, 勉強会, 地域スポーツクラブサポート）
・運動器健診
・理学療法勉強会（卒後教育）
・国際保健医療福祉プログラム（委員長），国際リハビリテーションコース
・学生支援協議会・学生委員会（委員長）
・臨床教育実習委員会（委員長）

聖隷クリストファー大学　理学療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　俵祐一
職位　　准教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
基礎理学療法学	42	理学療法診断学概論	49
内部障害系理学療法評価学	42	臨床理学療法総合実習Ⅱ	47

２．理念

私が担当しています基礎理学療法学や理学療法診断学概論は，理学療法の対象である，様々な疾患によって発現する症状・徴候，構造と機能の障害，運動や動作の障害について，解剖・生理・運動学の基礎知識を統合して，その発生および治癒課程を理解・説明し，エビデンスに基づいた理学療法の評価や治療を選択することができることを目標に，臨床場面を想定した学修を展開する必要があります．そのため，学生の皆さんには障害像がイメージしやすいよう，症例提示など具体的な内容を想定して授業展開できるように努めます．

３．方法

症例を提示し，その背景や現在認めている症状について検討を促し，課題を提示してグループワークを中心に取り組み，プレゼンテーションおよびディスカッションにてさらなる理解を促しています．テーマ毎に小テストを実施し，理解度の確認を行っています．

４．成果

授業内での定期的に実施する小テストや課題成果物については概ね理解が進んでいるのは確認できますが，最後に全体を網羅した確認テストを行い理解度の確認を行います．基礎理学療法学において昨年度より全体の GPA が下がっているため，理解度の向上につながる方略を検討．授業評価については全体的に概ね良好な評価をいただいているため，学生の学修意欲に対する働きかけは行えているものと考えます．

５．改善

課題成果物や小テストにおいては十分取り組んで貰えていますが，筆記による確認テストの成績は十分とは言えないため，知識定着向上に向けて，課題難易度の調整など再検討していきます.

６．教育活動

セメスター毎のアドバイザー面談の実施．全学 FD 研修会および学部 FD 勉強会への参加．学外の教育系セミナーへの参加.

聖隷クリストファー大学　理学療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　矢部広樹
職位　　准教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
内科系医療学	105	理学療法検査測定演習	42
日常生活活動学の理論	42	発展的理学療法学	7

２．理念
　学生の全人的な成長を促す

３．方法
　アクティブラーニング、グループワーク、e-ポートフォリオ、ルーブリックを駆使する

４．成果
　良好な授業評価を得た

５．改善
　VR 技術を応用する

６．教育活動

聖隷クリストファー大学　理学療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　高山真希
職位　　助教

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
理学療法概論	49	日常生活活動学の実践	48
理学療法治療演習	47	臨床理学療法生活支援実習	42

２．理念

理学療法士としての臨床経験を基に、学生自身が主体的に考え・行動し、学内学修および課外活動や臨床実習での学びを深めるようサポートする

学生が持つ可能性を引き出す

３．方法

実践的な活動や実技・演習を交え、グループワークやプレゼンテーションで理学療法士に必要なコミュニケーション力や思考力を高め・伸ばす

知識確認テストやチェックリスト、ルーブリックなどを活用し、重要な要素を理解しやすいように工夫している

４．成果

学生自身が課題に対して前向きに取り組み、探究することを通して、目標を達成し、成長を実感することができている

５．改善

課題に対する興味関心が高まるような関わり方や問いかけをすることにより、学生自身が到達目標を明確にし、意欲的な取り組みができるように工夫する

６．教育活動

アドバイザー：理学療法学科２年生副アドバイザー

課外活動・地域貢献活動：浜松市ふれあい交流センター萩原　元気はつらつ教室
サークル活動：Su・miling 顧問
硬式野球部：会計担当

聖隷クリストファー大学　理学療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　高橋大生
職位　　助教

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
国際リハビリテーション援助論	29	理学療法評価演習	47
機能代償機器学の理論	48	機能代償機器学の実践	47
国際理学療法実習	6		

２．理念

なぜその知識が必要なのか、どのようにその知識は自分の人生に役に立つのか？ここを一番重点を置いて説明します。

また、授業内に積極的なアウトプットを促し、知識の定着を図ります。時代に合わせた質問抽出方法やディスカッション技法などを駆使し、学生が自分の考えをアウトプットする機会を造ります。

３．方法

導入の学ぶ意義については、教員の臨床での実体験を基に講義形式を行うなどの工夫をします。また、各コマの到達目標を明確にし、学生自身がどこまで到達していることが望ましいかを共有します。授業中に周囲と意見や考えをすり合わせる時間を設けアウトプットの回数を増やします。積極的にグループワークや演習、ロールプレイなどを用いて授業を展開していきます。

４．成果

授業評価から、学生の理解度や目標への到達は概ね達成できていると考える。しかし、授業内（機能代償）のアンケートから、義足の調整技法や異常歩行の動作分析の理解度に課題が残っている状況である。

５．改善

引き続き主体性を引き出せるよう授業を展開していきます。また、機能代償の実践の授業

では異常歩行の動作分析から義足の調整までの一連の流れを演習・グループワークを通して改善していきます。

６．教育活動

各責任科目の学修についてサポートします。

聖隷クリストファー大学　理学療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　田中なつみ
職位　　助教

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
運動学演習(PT)	49	理学療法教育マネジメント論	45
理学療法診断技術学	42	臨床理学療法検査測定実習	42

２．理念
　学生の学習意欲が喚起されるような教育を行っていく

３．方法
　知識の提供だけでなくグループワークなどを通して学生が主体的に学修するような体系を整える

４．成果
　GPA：3.22
　授業を通してグループごとに活動することで、学生が主体的に学ぶという姿勢がみられた
　一方で学生が教科書などの知識よりもインターネットなどの不確実な情報で実施していることも多く、修正が必要であった

５．改善
　学生がまとめる際の知識の下となる教科書や書籍、論文などの情報提供を行うとともに、教員が確認した上で授業のファシリテートを学生に実施してもらうことが必要であると感じた

６．教育活動
　21RP アドバイザー

Palpation サークル顧問

聖隷クリストファー大学　作業療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　伊藤信寿
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
特別支援教育概論	9	特別支援教育	58
保健医療福祉倫理学	7	人間発達学	72
作業療法概論	23	発達領域作業療法学の基礎	37
発達領域作業療法学の応用	28	発達領域作業療法学演習	3

２．理念

ICF でいう身体構造と活動、参加の因果関係の理解が深まる、探求心を念頭においていることを目標としている。また、国家試験に繋がるよう可能な限り、神経や運動学の内容も盛り込んでいく。

３．方法

ビデオ視聴や画像、図で多く示している。また、言葉ではなく図で理解できるよう、可能な限り図を描くよう促している。

４．成果

学習の積み重ねが難しい、1，2 年生で学習した内容（解剖や運動学）の理解ができていない学生が多く、時間が足りない。また、対象者のできない原因を自閉症だからと、短絡的に考えてしまう傾向がある。

５．改善

国家試験問題における発達領域の問題を考慮しながら、理解してほしい内容を絞りより明確にしていく。

６．教育活動

地域実践 AL、地域貢献活動、ボランティア活動等を通して、より実践的な教育をしていく。

聖隷クリストファー大学　作業療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　新宮尚人
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
基礎演習	89	精神医学系医療学Ⅰ	103
リハビリテーション概論	89	精神領域作業療法学の基礎	37

２．理念

基本理念として以下を念頭に置いている。

今の自分に求められていることにきちんと取り組むこと。

その姿勢は、やがて信頼につながり仕事をまかせられる人物として評価される。

具体的には、課題提出の期限を守ること等がこれに相当する。

３．方法

ハイブリッド型 PBL を実施

授業は以下の通り、 3 つの part（ PBL 、 成果発表 、 講義 ）で構成され、

PBL →成果発表→講義の順に展開される。

PBL

最初に PBL を実施し、 自分たちで考え調べ自分なりの答えを作成する（予習機能)。

成果発表

その後 、あらかじめ割り振られたグループの学生が PBL の成果を報告する が、それ以外の学生は自分で作成した資料を手元に置き発表を聞く。学生は発表内容と教員のコメントを聞いて内容 の確認や修正をする。

講義

最後に教員は学習の ポイントを講義する。 という流れをとる。講義ではパワーポイントによる説明の他、テーマに沿った DVD 視聴などを併せて 実施し、イメージを膨らませる（トライ・アンド・エラーの確認） 。

４．成果

＜授業評価について＞精神領域作業療法の基礎（２年生　秋セメ）

学生からは「毎回の目標が明記されて、何について学ぶのか明確であった」とのコメントがあった。

５．改善

獲得できる知識等にばらつきが生じないか、チェックする必要がある。今後の検討課題とする。

６．教育活動

役職上、教員を通じての調整が主であり、学生との直接やり取りをする機会は少ない。

普段から声掛けをしていきたい。

聖隷クリストファー大学　作業療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　泉良太
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
運動学演習(OT)	42	研究法入門	28
身体領域作業療法評価学	37	神経系作業療法学	37
日常生活活動技術学	28	臨床作業療法評価実習	27
作業療法学内総合実習Ⅱ	87	発展的作業療法学	6

２．理念
　座学と臨床が結び付く講義内容

３．方法
　実際の事例の紹介を行い，その時に必要な知識を基礎から説明する．

４．成果
　臨床推論力が向上する．自ら座学，実技の練習を実施する．

５．改善
　イメージの難しい評価や病態の説明について，予習・復習を徹底し，実際の事例を元に説明する．

６．教育活動
　副アドバイザー

聖隷クリストファー大学　作業療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　顧寿智
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
解剖学Ⅰ	158	解剖学Ⅱ	157
解剖学	89	運動器解剖学	72
神経解剖学	72	言語聴覚解剖学	24

２．理念

解剖学では人体の精密で美しい構造の知識を学ぶだけでなく，命の大切さを実感させる教育を行うことができるよう、信念と情熱を持って教育に取り組んでいます。

３．方法

学生が主体的に取り組むために ICT を活用します。自作した WebClass 教材を学生に提供することで理解を促し知識の定着をはかります。今後の専門科目、国家試験そして実践のための基礎を築きます。

４．成果

比較的良い教育成果と授業評価を得ました。

５．改善

１．講義の内容や順番に関連性を持たせ、理解しやすくします。
２．分かりやすい言葉を用いて説明します。

６．教育活動

日本解剖学会会員
コ・メディカル形態機能学会会員
リハビリテーション科学ジャーナル編集委員長

聖隷クリストファー大学　作業療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　藤田さより
職位　　准教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
作業療法評価学演習	38	作業技術学	38
精神領域作業療法学の応用	28	精神領域作業療法学演習	24
地域作業療法学	28	職業リハビリテーション学	28
臨床作業療法総合実習Ⅰ	29	臨床作業療法総合実習Ⅱ	29
作業療法教育マネジメント論	58		

２．理念
　学生が主体的に学びつつも知識・技術が定着できるよう PBL.グループ学修、演習、視聴覚教材等を多く取り入れる。

３．方法
　事前課題を講義前に提示し、知識確認テストを行う。授業では事例ベースに学修が進めまた、学生が主体的に取り組めるように、PBL での進行を行う。

４．成果
　授業評価では概ね満足の高い結果となった。半面、実習における活用では不十分という意見があった。

５．改善
　事例ベースで進めるためには基礎的知識の獲得は必須であり、必要不可欠な知識は確実に覚えられるよう講義、事前学習に加え、小テストなどを取り入れていく。

６．教育活動
　地域アクティブラーニング　担当者
　リハ学部教務委員長
　作業療法教育学会会員

聖隷クリストファー大学　作業療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　鈴木達也
職位　　准教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
国際リハビリテーション研修(PT・OT)	17	国際コミュニケーション演習	5
作業科学と作業療法	23	高次脳機能障害学(OT)	38
高齢期作業療法学演習	28	臨床作業療法応用実習	37
作業療法学内総合実習Ⅰ	27		

２．理念

人に貢献でき自分自身の健康も大切に作業療法士を育成するために、興味・関心がたかまり自己学習に取り組めるようにする。学生の参加度が高まるよう教授方法や話し方など工夫する.

３．方法

アクティブラーニングの手法（PBL,TBL、事前の予習動画、グループワーク、プレゼンテーション）を多く取り入れる.

４．成果

小テストを繰り返すことで記憶の定着を図れている。

５．改善

学生からの質問に答える時間を作ることができるよう、習慣スケジュールを共有する

６．教育活動

国際リハビリテーションコース・国際保健医療福祉プログラムチューター、情報化推進委員、ブラスバンドサークル顧問

聖隷クリストファー大学　作業療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　佐野哲也
職位　　准教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
運動器系作業療法学	37	日常生活活動技術学実習	28
臨床作業療法基礎実習	25		

２．理念

医療技術職識者として，常に最新の技術，知識のみだけでなく，一社会人としての規範を，学生一人一人に合わせた教育を実施する．

３．方法

身体障害領域の作業療法を中心に，臨床的な思考を最新の知見と合わせて，講義を実施．その後，事例を提示してグループ学習にてコミュニケーション能力，基礎知識をどのように臨床に結び付けるかの応用力を養う実践的な講義を展開している．

４．成果

臨床作業療法基礎実習では，初めて実習に臨む 1 年生に対し，過度な緊張をしないよう，知識や心構えの準備期間を 2 ヶ月前から実施し，実習後にもグループ学習を通じてフィードバックを行い，作業療法士に対する意欲を高めることができた．

運動器系作業療法学では，代表的な疾患に対する画像診断を含めた基礎知識から，事例学習での作業療法治療プログラムの立案の一連の流れを伝えることができている．

日常生活技術学実習では，日常生活動作の低下をどのように改善させ，自宅退院に結びつけて臨床では実施していくかを，ADL 実習室の利便性を向上させ，実技を中心に行い，臨床実習でも日常生活評価が実施しやすくなった．

５．改善

臨床実習や新卒での臨床では，技術，知識面，治療を進める上での対象者とのコミュニケ

ーション技能のどのよう点が困難となるかをフィードバックしていき，講義内容を更新していく必要がある．

個々の学習の進み具合に応じて，講義方法を検討する必要がある．

６．教育活動

４年生のアドバイザーとして，学科教員と協力しながら学修面・生活面へのフォローアップを行っている．国家試験・就職関係担当として，主に４年生への相談，学習指導を実施している．臨床協力施設で，本学新卒者を中心に臨床支援を実施している．

聖隷クリストファー大学　作業療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　飯田妙子
職位　　助教

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
精神医学系医療学Ⅱ	37	作業療法評価学総論	23
基礎作業学	23	卒業研究(OT)	58

２．理念

病院やクリニック、地域での臨床経験を持つものとして、専門知識・技術の習得だけではなく、人々と関わる際に大切な「社会人基礎力（考える力、行動力、対人関係力)」を獲得できるような教育、学生支援を心がけている。

３．方法

授業では、精神・発達領域での最新の臨床経験を講義に取り入れ、学生が教科書等で獲得した知識を実践のイメージに発展できるような授業内容を提供している。

また、現場で必要な臨床思考、行動、他者とのコミュニケーション能力を向上できるよう、学生自身が主体的に考え、行動し、ディスカッションや情報共有を積極的に行えるようなグループ活動を取り入れている。

４．成果

上記のような授業の工夫の成果として、授業評価アンケートでは高い評価をいただいたと考える。一方で、精神領域は学生にとって馴染みがなく、専門知識の定着が難しかった面が GPA として現れていると考える。

５．改善

授業の内容が定着されたかどうか、学生の理解度を測る取り組みの実践や学生間・学生教員間の情報共有の時間を取り入れていきたいと考える。

６．教育活動

４年生のアドバイザーとして、実習・卒業研究・就職活動・国試対策のサポートを学科教員、関係部署と協力して行った。アドバイザー以外の学生でも、生活や学修面、メンタル面での相談に乗ることが多く、より良い学生生活になるよう支援を行なっている。

リハ学部で行なっている産学連携 WG では、杏林堂薬局と学生のコラボ企画の運営援助を行なっている。学生にとっては、地域実践のアクティブラーニングの機会となっている。

聖隷クリストファー大学　作業療法学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　栗田洋平
職位　　助教

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
高齢期作業療法評価学	28	高齢期作業療法学	37

２．理念

本学の建学の精神である『生命の尊厳と隣人愛』を身に付ける機会として、授業内にグループワークを実施する機会を設け、学生同士の互助を促し、他者を尊重しながら学習活動を進めていくように指導している。

また、本学の卒業生である点、学科内で最も学生と年齢が近い点を活かした関りを心掛けている。

３．方法

授業では、知識を伝えるだけでなく、グループワークや演習を通し、学生が主体的に考え、行動する能力を身に付けることができるよう工夫している。

また、自身の臨床経験を基に具体例を挙げながら知識を伝えることで、学生が学んだ知識をどのように作業療法士として活かすのかイメージしやすいようにしている。

４．成果

授業時のアンケートでは、理解度が【よく理解できた】、【ほぼ理解できた】との声が多い。

専門性が高い授業では、教員からの一方的な教示が多くなる傾向にあるため、そのような授業においても如何にして学生の主体的な学びを引き出すか検討する必要がある。

５．改善

科目責任者として 2 科目を担当しているが、GPA1.8~2.0 と高くない値であった。学生の状況に合わせ、授業内容・課題を調整しながら作業療法士として必要な知識・技術が習得で

きるように学習の促しを行う。

６．教育活動

２年生のアドバイザーとして定期的・必要時に面談を実施している。今後の学生進行も踏まえ、学生が教員と協働して学習が進められるように心がけている。

地域活動としては、認知症予防講座に参加する学生のサポート・引率を行っている。学生が地域に興味を持つ機会になるよう継続してサポートをしていきたい。

聖隷クリストファー大学　言語聴覚学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　谷哲夫
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
失語症学	25	失語・高次脳機能障害評価演習	25
失語症治療学	26	高次脳機能障害学(ST)	26
失語・高次脳機能障害治療演習	25	流暢性障害学	27
言語聴覚障害学総合演習	25		

２．理念
　学生に主体性を持たせる授業を展開する

３．方法
　予習、復習内容を提示し、授業の理解を深める
　座学でも双方向的な授業展開をした

４．成果
　学習の進捗については確実に評価し、進捗状況に応じて再学習の機会を与えた。

５．改善
　毎回の授業で復習テストを実施し解説した。
　リアクションペーパーの質問はクラス全員に公開して解説した。
　三方原地域の高齢者に学生教育に協力していただく「教育支援者データベース」を作成し、教員とは異なる第三者視点での評価をいただくことができた。

６．教育活動
　1年生のアドバイザー
　郷土料理研究会顧問

聖隷クリストファー大学　言語聴覚学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　柴本勇
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
国際支援入門	80	国際支援アクティブラーニングⅠ	71
リハビリテーション栄養学	103	国際リハビリテーション研修(ST)	1
呼吸発声発語系の構造・機能・病態	18	神経系の構造・機能・病態	17
言語聴覚障害学概論	17	発声発語障害学総論	25
音声障害学	29	拡大代替コミュニケーション演習	28
国際言語聴覚療法実習	4		

２．理念

理論と臨床実践の融合を図ることを教育の主軸としています．理論は教員の経験だけでなく，欧米も含めて専門分野の学術理論を教授することを旨としています．臨床は，教員自身の長い臨床経験から必要なスキルと臨床推論や判断力をも教授することを心がけています．

３．方法

教員自身が多くの書籍を執筆しており，その中には動画教材もあります．それらを使ってなるべく具体的な臨床像を見せながら享受しています．典型例と同時に非典型例の両方を教授しています．音声障害学では反転授業を導入しなるべく授業中には臨床の話ができるよう工夫しています．また，現役ボイストレーナーからお話を伺う機会を設けています．言語聴覚障害学概論では，グループワークを導入しコミュニケーション力を高めながら，健常高齢者の方々に依頼しコミュニケーション演習を行っています．

４．成果

授業評価はある程度の評定ですが，GPA が低い科目があることが気になっています．言語聴覚療法は多角的にアプローチすることが求められ，また見えない障害を扱うことから，考える力を重要視しています．この点が学生の皆さんにはなかなか理解が十分にならない点です．授業だけでなく，ボランティア活動など課外での活動も含めて考えていく必要性を感じています．

５．改善

典型例の臨床症状ビデオライブラリーを作りたいと考えています．学生の皆さんは教科書から臨床像を描くことが難しい様子ですので，具体的症状をビデオで観れるようにしたいと考えています．また，ワークブックの作成も考えたいと思います．小テストなども入れて，自身で自己学習できる教材を考えたいと思います．

６．教育活動

2 年生主アドバイザー, 硬式野球部顧問, ISS 顧問, 国際支援アクティブラーニング, SIRC 会長

聖隷クリストファー大学　言語聴覚学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　大原重洋
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
リハビリテーション職種間連携の基礎	89	聴覚心理学	25
聴覚障害学	26	聴覚機能評価演習	26
小児聴覚障害学	26	小児聴覚障害演習	26
成人聴覚障害学	26	聴覚補償演習	26
臨床言語聴覚療法評価実習	25	臨床言語聴覚療法総合実習Ⅰ	28
臨床言語聴覚療法総合実習Ⅱ	28		

２．理念

聴覚障害者が聞こえの障害以外にも様々な面で生活上の困難を抱えていることを理解し、彼らが自立した生活を送るための包括的な支援の理論・技術を学びます。特に、乳幼児期から高齢期までの生涯発達の観点から、聴覚障害がその人に及ぼす生活上の不自由さについて理解し、聴覚、言語・コミュニケーション、関連する発達の評価や補償機器の適合に基づき、適切な指導プログラムの検討・策定し、実施する力を養うことを目指します。

３．方法

授業では、理論と実践をバランスよく取り入れることを心掛けています。講義形式で基礎知識を伝える一方で、演習や実習を通じて学生に実際の現場での対応力を養う機会を提供しています。また、最新の研究や技術を取り入れた教材を開発し、学生の興味を引き出す工夫を行っています。さらに、学生が実践的な支援スキルを身につけられるよう、理論学習に加えて、地元の聴覚特別支援学校との協働した演習も重視しています。

４．成果

全ての科目で説明のわかりやすさ（q1）が高く評価されており、特に「聴覚機能評価演習」（3.58）と「小児聴覚障害演習」（3.73）で顕著でした。

「聴覚機能評価演習」（3.58）と「小児聴覚障害演習」（3.73）で、学生の意欲（q4）が特に高く評価されています。これは、演習形式の授業が学生の積極的な学びを促進していることを示しています。

興味を引き出す工夫でも、全体的に評価が高く、「小児聴覚障害演習」（3.73）で特に高い評価を得ています。これは、聴覚特別支援学校に協力してもらい、実際の子どもを対象とした検査・訓練を体験できた成果と言えます。

このことは、自身の成長実感（q6）が特に「小児聴覚障害演習」（3.73）で高い評価を得ていることとも繋がっていると考えられます。

一方、目標を達成できたか（q5）の評価がやや低いことが課題として浮かび上がります。特に「聴覚心理学」（3.08）と「聴覚補償演習」（3.18）での評価が低く、十分な理解に達していない可能性があります。目標設定や達成度の向上が求められます。

５．改善

目標達成度に関して改善の余地があるため、目標を明確に設定し、それに向けた授業内容や評価方法を見直すことが必要です。

加えて、授業計画通りの実施（q3）においても改善の余地があり、授業の進行管理をより徹底することが求められます。

学生が主体的に学ぶ機会を増やすために、ディスカッションやグループワークを増やし、学生同士の意見交換を促進する等、授業にインタラクティブな要素を取り入れることも必要と考えます。

６．教育活動

４年生主アドバイザーとして、個別の相談を通じて、学生一人ひとりのニーズに応じたアドバイスを提供しました。

さらに、学内外でのセミナーや講演会で講師を務め、聴覚障害に関する啓発活動を行っています。これにより、学生だけでなく、地域社会に対しても聴覚障害への理解を深めることに貢献しました。

聖隷クリストファー大学　言語聴覚学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　小坂美鶴
職位　　教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
音声学・音韻論	21	音声学・音響学演習	25
言語発達学	19	言語発達障害学	25
言語発達障害評価演習	26	言語発達障害治療学	26
言語発達障害治療演習	25	小児構音障害学	27

２．理念
　国家試験のある領域では確実な知識をつけ、授業内の知識を習得し、専門家としての基盤を作る。

３．方法
　授業資料のわかりやすさの工夫と授業内での専門家としての意識づけを行う。

４．成果
　定期試験での成績が上がってきた。

５．改善
　低学年からの意識づけがきちんとできてなかったので、高学年になってからの知識の積み重ねが十分ではなかった。今後は低学年の授業を見直していく。

６．教育活動
　浜松市のことばの相談室での臨床活動を授業内容に活かしている。

聖隷クリストファー大学　言語聴覚学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　佐藤豊展
職位　　准教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
臨床医学・医療学概論	89	摂食嚥下障害学概論	33
言語聴覚障害診断学	26	成人構音障害学	26
発声発語障害評価演習	26	発声発語障害治療演習	25
摂食嚥下障害総合演習	26	臨床言語聴覚療法基礎実習	17
地域言語聴覚療法学	54	拡大代替コミュニケーション演習	28

２．理念

言語聴覚士は摂食嚥下障害や運動障害性構音障害のリハビリテーションに関わる頻度が高い。国家試験に対応できる知識を獲得することはもちろん、将来臨床場面で診療ができるよう、理論と演習を通して知識・技能を獲得することを目的に行っている。

３．方法

講義は事前学習、授業、事後学習の形式で行っている。授業では座学および演習を通して教授している。授業では大切な点を強調したり、複数回述べたりしている。授業中に 1～2 分程度の休憩時間を取り、授業内容をリハーサルできるように工夫をしている。また、視覚的に理解できるように促している。事後学習では小テストを作成し、理解の定着を促すようにしている。

４．成果

「Q.1 説明のわかりやすさ」と「Q.2 興味を引き出す工夫」、「Q.4 学生が意欲を持てたか」の 3 項目では、すべての科目で 3.2 以上であった。

「Q.3 授業計画通りの実施」と「Q.5 目標を達成できたか」では、3.2 を切っている科目があった。

５．改善

「Q.3 授業計画通りの実施」は、学生の理解度を確認しながら進めているが、事前学習を充実させるなどして、計画的通りの実施を心がけたい。

国家試験や臨床のことを考えると、到達目標を下げることは難しい。事前学習や事後学習を有効に活用し、授業評価の結果を向上させたい。

６．教育活動

４年アドバイザーとして、国家試験や就職活動の指導・支援を行った。

聖隷クリストファー大学　言語聴覚学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　KuramotoChristineDianne
職位　　准教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
英語Ⅰ(月 2)	35	英語Ⅰ(火 1)	26
英語Ⅱ(月 2)	24	英語Ⅱ(月 5)	34
英語Ⅱ(月 6)	26	英語Ⅲ（看護英語）	30
入門リハビリテーション英語（英語Ⅲ）（PT の A）	21	入門リハビリテーション英語（英語Ⅲ）（ST）	25
入門リハビリテーション英語（英語Ⅲ）（PT の B）	21		

２．理念

I want to help you enjoy the many things you can do with English. Studying English can be a tool that leads you in the direction of your goals and dreams. English can be an asset to you for making friends, furthering your career, understanding world research, learning about other cultures and more. I want to help you figure out what you want to use the English language for and motivate you to reach for your goals.

英語を使ってできる多くのことを発見する手助けをしたい。英語の勉強は、あなたの目標や夢の方向へ導いてくれるツールになります。友達作り、キャリアアップ、世界研究の理解、異文化学習など、英語はあなたの財産になります。私は、あなたが英語を何のために使いたいのかを見つけ、目標に向かってモチベーションを上げられるように指導したいと思います。

３．方法

To comprehensively develop the four skills (listening, speaking, reading, and writing) with an emphasis on communication. I try to provide many opportunities for students to use their English through presentations, conversations, and other activities and assignment.

コミュニケーションを重視し、4 技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に伸ばす。プレゼンテーション、会話、その他のアクティビティや課題を通して、生徒が英語を使う機会を多く設けるよう心がけています。

４．成果

I am learning along with you as you take my course. I appreciate your input and your effort to help make this a beneficial experience for you. I am so proud of the effort that each and every one of you put into learning!

皆さんが私のコースを受講している間、私も皆さんと一緒に学んでいます。私のコースが皆さんにとって有益な経験となるよう、皆さんのご意見やご尽力に感謝しています。皆さん一人一人の学習にかける努力を誇りに思います！

５．改善

I will continue to adjust to the needs of my students. I will try to keep the pace of the class at a level that suits each unique group of students.

これからも生徒のニーズに合わせていきます。それぞれの生徒の個性に合ったレベルで、授業のペースを保つよう努めます。

６．教育活動

I attend academic conferences and read research to continue growing as a teacher. I collaborate with other professionals to create meaningful and relevant study materials for my students.

教師として成長し続けるために、学会に出席し、研究に目を通す。他の専門家と協力し、生徒にとって有意義で適切な学習教材を作成しています。

聖隷クリストファー大学　言語聴覚学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　黒崎芳子
職位　　准教授

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）
　2023 年度は科目責任者として担当する科目無し

２．理念
　多様性の時代に対応できる人間性豊かな医療技術専門職を目指しましょう。

３．方法
　講義では、確認テスト、リフレクション・ペーパーなどを用い、学修状況の確認を行います。
　演習では、各グループでのディスカッション、実技演習を通じたアクティブラーニングを行います。

４．成果
　講義・演習とも、専門的知識と臨床が結びつくよう、学生の知識や経験（レディネス）を配慮した導入・展開を行った。

５．改善
　講義ごとに実施する確認テスト、リフレクション・ペーパーなどに基づき、学修状況の確認を行い、学修目標の達成段階に応じた授業を展開します。
　演習では、グループ活動において対話を通じた深い学びが得られるよう工夫してゆく。

６．教育活動
　3 年生アドバイザー

聖隷クリストファー大学　言語聴覚学科　ティーチングポートフォリオ

氏名　　佐藤綾華
職位　　助教

１．教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
聴覚系の構造・機能・病態	17	言語発達障害学基礎実習(保育園)	25
言語聴覚学研究法	29	言語聴覚学研究法演習	28
卒業研究(ST)	7	言語聴覚障害学特別講義	36
発展的言語聴覚療法学	4		

２．理念
　学生の主体性を尊重した教育を心がける

３．方法
　学生の理解の状況を確認しながら講義を進行していた
　図や映像などを用いて学生の理解を促した

４．成果
　演習科目では、担当教員を配置したため個々に合わせたサポートができたことから GPA が高かったと考えられる。
　講義科目では、予習の時間を設けていなかったため講義や復習のみでは知識の定着に至らなかった点があったと考える。
　知識確認のために前回の講義内容について質問すると、図や映像のエピソードから想起することができていた。

５．改善
　期末試験のみでなく各回に小テストを設け、知識の定着を図る
　復習のみではなく予習することを徹底する

６．教育活動
　3 年生の主アドバイザーを担当